

災害復興医療人類学研究所

所長 辻内琢也（人間科学学術院 教授）

研究活動概要

・定例研究会の実施

研究所研究員・招聘研究員、および各研究室所属学部生・大学院生による研究報告とディスカッションを行った。

第1回（2024年4月23日）：辻内琢也（所長，早稲田大学人間科学学術院教授）「原発事故被災者の社会的孤立と孤独の予防と社会的ネットワークの構築」．RISTEX 応募に向けて

第2回（2024年5月28日）：渡部朋宏（招聘研究員，法政大学公共政策研究科／会津美里町自治体職員）「福島原発事故 自治体避難の実態と住民の権利」

第3回（2024年6月25日）：中村光江（招聘研究員，関西大学文学部哲学科／図書印刷株式会社）「民俗芸能に関わるということー岩手県宮古市の地域社会・文化復興の格闘・・・黒森神楽を中心に」

第4回（2024年7月23日）：＜ゲスト＞清水奈名子（宇都宮大学国際学部教授）「原発災害とジェンダー問題」

第5回（2024年8月27日）：平田修三（招聘研究員，仙台青葉短期大学子ども学科准教授）「社会的養護領域におけるライフストーリーワークという取り組みーWIMA プロジェクト『当時小学生だった若者たちとの対話』と関連づけながら」

第6回（2024年9月24日）：辻内琢也（所長）「フクシマ型 PTSD 仮説実証に向けた臨床事例研究」

第7回（2024年10月22日）：辻内琢也（所長）「シンポジウムに向けた課題の検討」

第8回（2025年1月28日）：野原颯太（辻内研究室学生）「日本で原発・放射線教育を普及する際の課題」、藤本奈津子（辻内研究室学生）「原発事故後の福島県における原発教育の実態」

第9回（2025年2月25日）：津乗静花（辻内研究室学生）「福島第一原子力発電所事故において母親たちの抱えた困難及びニーズ」

第10回（2025年3月25日）：戸田典樹（招聘研究員，東京通信大学人間福祉学部教授，社会福祉学）「私のこれまでの研究、そして復興の現場を歩き、新たな研究課題について考える」

・研究成果を書籍として出版

◆辻内琢也（著）『【意見書】フクシマ型 PTSD“今やらねばならぬこと”ー原発事故被害者への“構造的暴力による社会的虐待”』（三和書籍）2024年8月発行

・・・10年間にわたる調査が明かす、原発事故被害者の被害実態の全体像。

推薦者：島蘭進（東京大学名誉教授），竹沢尚一郎（総合研究大学院大学・国立民族学博物館名誉教授），井関佳法（京都南法律事務所），蟻塚亮二（メンタルクリニックなごみ）

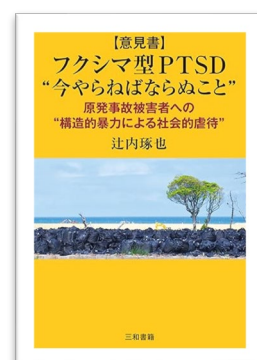
◆辻内琢也（著）「苦難の先に見いだす`希望、一原発事故型PTSDといかに向き合うか」，聖教新聞「復興と文化」取材班（編集）『復興と文化：常態化する災後社会のなかで』（第三文明社）2024年12月発行

・・・災害多発時代を迎えた日本――各界を代表する識者から、災害からの「地域の再生」「復興」という大きな課題に取り組むための新たな視点や具体的な方策を探る。作家、災害復興制度の研究者、災害復興支援の弁護士、日本障害者協議会代表、宗教学者、医師、社会学者、民俗学者、文芸批評家たちの知見を集約した。

・主要な研究業績

・村本邦子：周辺からの記憶 44 2022年6月福島フィールドワーク．対人援助学マガジン 15(2)：124-143，2024年9月

・村本邦子：周辺からの記憶 46 2022年双葉町のこと．対人援助学マガジン 15(4)：135-146，2025年3月



特に有意義と考える活動、成果等

・シンポジウム“復興の人間科学 2024”の開催

福島原発事故 13 年の経験から学ぶ

～当時小中高生だった若者たちとの対話から（第3回）～

➡<https://wima.jp/?p=1869>

- ◆2024 年 11 月 23 日（土）／24 日（日）
- ◆オンライン開催／早稲田大学大隈記念講堂（小講堂）
- ◆主催:早稲田大学災害復興医療人類学研究所（WIMA）

大会長：辻内琢也，実行委員長：平田修三，事務局長：金智慧

[第 1 部] 当時小中高生だった若者達との対話から学ぶ

- ①企画趣旨：平田修三（仙台青葉学院短期大学准教授）
- ②被災当事者の若者 4 名による発表
- ③早稲田大学人間科学部学生による事前インタビュー調査結果・考察
- ④本シンポジウム企画教員 4 名によるコメント
（岩垣穂大、戸田典樹、福島勲、村本邦子）

[第 2 部] 基調講演

清水奈名子（宇都宮大学国際学部教授・国際機構論）

「語りにくい原発事故被害；なぜ被害の可視化が必要なのか」

[第 3 部] パネルディスカッション：辻内琢也（司会）

被災当事者 4 名，清水奈名子，森松明希子，平田修三

- ①テーマ A:原発事故後 13 年の経験の意味・意義を考える
- ②テーマ B:若者達による日本社会・国際社会への提言

[第 4 部] フランスとの共同研究の最新知見

セシル・浅沼＝プリス（フランス国立科学センターMITATE ラボ）

[第 5 部] ドキュメンタリー映画上映＆映画出演者との意見交換会

映画『決断 運命を変えた 3.11 母子避難』（監督：安孫子亘）

※国境なきドキュメンタリー国際映画祭受賞

➡<https://mirufilm.jimdofree.com/%E6%B1%BA%E6%96%AD/>

“復興の人間科学2024”
福島原発事故13年の経験から学ぶ
～当時小中高生だった若者達との対話から（第3回）～
Lessons from 13 Years of Experience after the Fukushima Nuclear Accident: From the Dialogue between Young Victims and Researchers

[11月23日(土) 200Mオンライン開催]
【ご挨拶】 10:00 開会の挨拶：大会長・辻内琢也（早稲田大学人間科学部准教授・WIMA代表）
【第1部】 10:05～
①企画趣旨：平田修三（5分）
②被災当事者の若者4名による発表（10分）
③早稲田大学人間科学部学生による事前インタビュー調査結果・考察（10分）
④本シンポジウム企画教員4名によるコメント（10分）
（岩垣穂大、戸田典樹、福島勲、村本邦子）
【第2部】 10:20～11:00、23日 11:00～11:40
①基調講演：清水奈名子（宇都宮大学国際学部教授・国際機構論）
②パネルディスカッション：辻内琢也（司会）
被災当事者4名、清水奈名子、森松明希子、平田修三
③テーマA:原発事故後13年の経験の意味・意義を考える
④テーマB:若者達による日本社会・国際社会への提言
【第3部】 11:45～ フランスとの共同研究の最新知見
セシル・浅沼＝プリス（フランス国立科学センターMITATEラボ）
【ご挨拶】 17:45～ 開会の挨拶：大会長・辻内琢也（早稲田大学人間科学部准教授・WIMA代表）
（仙台青葉学院短期大学准教授）

[11月24日(日) 大隈記念講堂 小講堂]
【ご挨拶】 10:00 開会の挨拶：大会長・辻内琢也（早稲田大学人間科学部准教授・WIMA代表）
【第1部】 10:05～
①企画趣旨：平田修三（5分）
②被災当事者の若者4名による発表（10分）
③早稲田大学人間科学部学生による事前インタビュー調査結果・考察（10分）
④本シンポジウム企画教員4名によるコメント（10分）
（岩垣穂大、戸田典樹、福島勲、村本邦子）
【第2部】 10:20～11:00、24日 11:00～11:40
①基調講演：清水奈名子（宇都宮大学国際学部教授・国際機構論）
②パネルディスカッション：辻内琢也（司会）
被災当事者4名、清水奈名子、森松明希子、平田修三
③テーマA:原発事故後13年の経験の意味・意義を考える
④テーマB:若者達による日本社会・国際社会への提言
【第3部】 11:45～ フランスとの共同研究の最新知見
セシル・浅沼＝プリス（フランス国立科学センターMITATEラボ）
【ご挨拶】 17:45～ 開会の挨拶：大会長・辻内琢也（早稲田大学人間科学部准教授・WIMA代表）
（仙台青葉学院短期大学准教授）

2024年11月23日(土) 10時～18時 オンライン開催 <https://wima.jp/>
11月24日(日) 10時～16時 早稲田大学大隈記念講堂（小講堂）無料

◆主催：早稲田大学災害復興医療人類学研究所（WIMA）
◆共催：WIMA Lab. Post-Fukushima Studies/フランス国立科学センターMITATEラボ
◆協賛：WIMA（Waseda Institute of Medical Anthropology on Disaster Reconstruction）
◆お問い合わせ：WIMA事務局（辻内琢也） TEL: 03-5278-5731 E-mail: disaster-wima@waseda.ac.jp

早稲田大学災害復興医療人類学研究所
Waseda Institute of Medical Anthropology
on Disaster Reconstruction

フランス国立科学センター見えてラボ
MITATE Lab. Post-Fukushima Studies

【シンポジウム】 復興の人間科学2024
福島原発事故13年の経験から学ぶ
～当時小中高生だった若者達との対話から（第3回）～
Lessons from 13 Years of Experience after the Fukushima Nuclear Accident: From the Dialogue between Young Victims and Researchers

【11月23日(土) 200Mオンライン開催】
【ご挨拶】 10:00 開会の挨拶：大会長・辻内琢也（早稲田大学人間科学部准教授・WIMA代表）
【第1部】 10:05～
①企画趣旨：平田修三（5分）
②被災当事者の若者4名による発表（10分）
③早稲田大学人間科学部学生による事前インタビュー調査結果・考察（10分）
④本シンポジウム企画教員4名によるコメント（10分）
（岩垣穂大、戸田典樹、福島勲、村本邦子）
【第2部】 10:20～11:00、23日 11:00～11:40
①基調講演：清水奈名子（宇都宮大学国際学部教授・国際機構論）
②パネルディスカッション：辻内琢也（司会）
被災当事者4名、清水奈名子、森松明希子、平田修三
③テーマA:原発事故後13年の経験の意味・意義を考える
④テーマB:若者達による日本社会・国際社会への提言
【第3部】 11:45～ フランスとの共同研究の最新知見
セシル・浅沼＝プリス（フランス国立科学センターMITATEラボ）
【ご挨拶】 17:45～ 開会の挨拶：大会長・辻内琢也（早稲田大学人間科学部准教授・WIMA代表）
（仙台青葉学院短期大学准教授）

2024年11月23日(土) 10時～18時 オンライン開催 <https://wima.jp/>
11月24日(日) 10時～16時 早稲田大学大隈記念講堂（小講堂）無料

◆主催：早稲田大学災害復興医療人類学研究所（WIMA）
◆共催：WIMA Lab. Post-Fukushima Studies/フランス国立科学センターMITATEラボ
◆協賛：WIMA（Waseda Institute of Medical Anthropology on Disaster Reconstruction）
◆お問い合わせ：WIMA事務局（辻内琢也） TEL: 03-5278-5731 E-mail: disaster-wima@waseda.ac.jp

その他の活動、成果等

・科研費・基盤(B)の獲得

本研究チームで、令和7年(2025年)から令和11年(2029年)までの5年間、科学研究費助成事業・基盤研究(B)を獲得することができました。

研究科題名：「原子力災害被災者の全人的復興モデル構築に向けたコミュニティベース参加型研究」

研究の概要：本研究は、Community-based participatory research(コミュニティベース参加型研究)により、身体的・心理的・社会的・経済的な「全人的苦痛」を負っている国内避難民・原子力災害被災者の、からだ・こころ・家族・コミュニティ・社会・文化・環境の回復を目指した、body-mind-society-culture-ecologyを包含した「全人的復興」モデルを構築することにある。

[研究 A]原子力災害被災者の「全人的苦痛」に関する調査研究、[研究 B]「全人的復興モデル」の構築研究、[研究 C]被災当事者である若者との対話と語り・証言記録作成研究、の3つの研究チームを組織し、インタビュー調査、フィールドワーク調査、大規模アンケート調査をもとに人間科学に基づく量的・質的混合研究法を用いる。応募者らは2011年発災当時から原子力災害被災者の支援を目指した研究に取り組んできており、本課題にてさらなる研究の発展を目指す。

